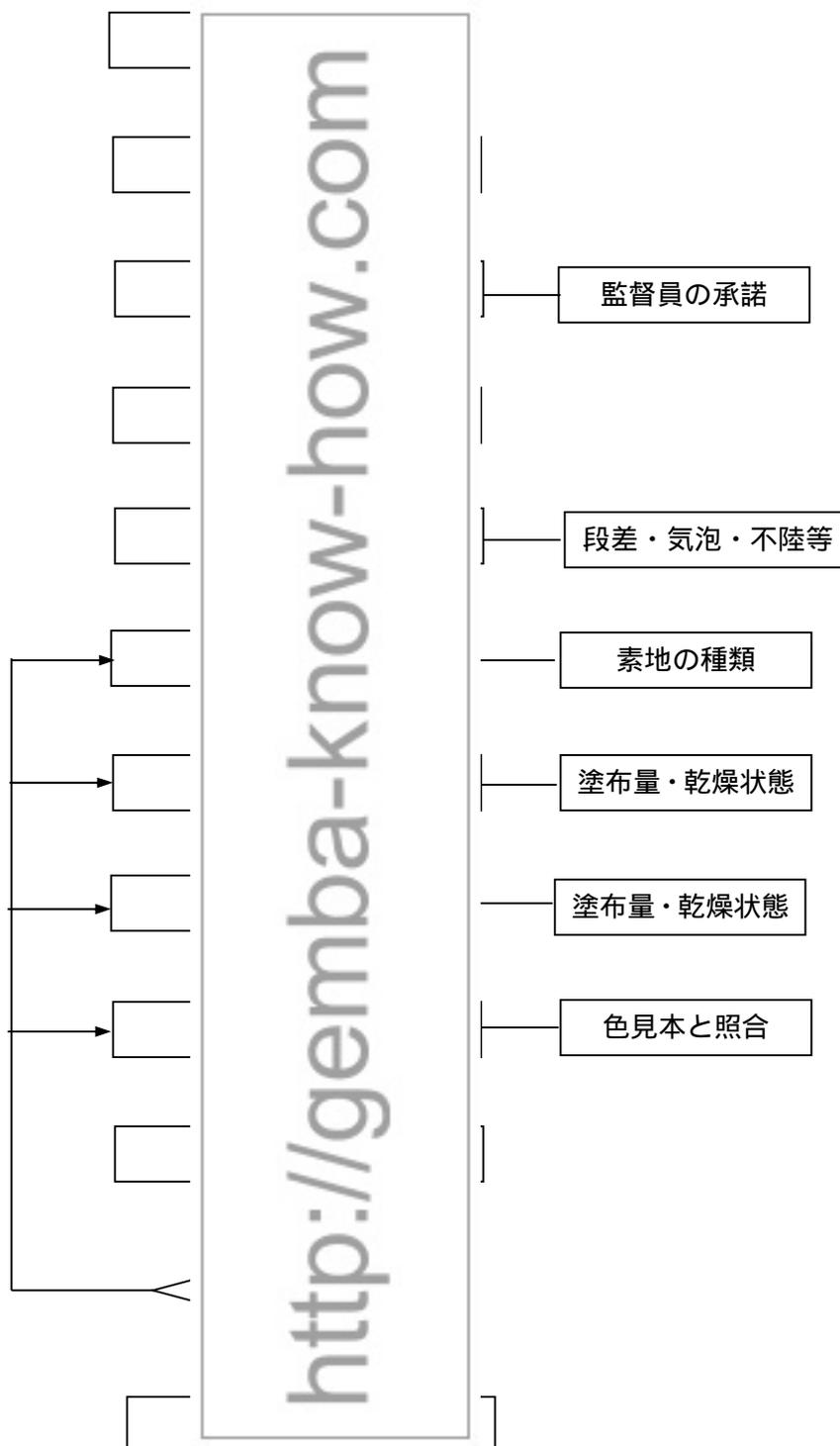


(6) 施 工

1) 塗装工程フローチャート



2) 共通確認事項

- a. 気象条件・・・天候（温度 5 以上・湿度 85%以下）、風雨、天気予報の確認
- b. 作業条件・・・安全、足場、照明、換気、下地の乾燥状態
- c. 有資格者・・・有機溶剤、高所作業車等
- d. 下地調整・・・汚れ、付着物を除去する。
- e. 塗り工法・・・刷毛またはローラー等を使用する。
- f. 色彩・艶・・・指示書を参照し、色・艶を揃える。
- g. その他・・・塗り残しがないように注意する。
- h. 養生・・・塗装箇所の周囲を養生し、養生材は養生材の仕様書に準拠したものを使用する。
- i. 塗面保護・・・塗装塗膜が損傷しないよう養生する。

3) 作業工程

塗装箇所	種別	工
内部鉄骨 見えがかり部	SOP 1回塗り	上
外部鉄骨 見えがかり部 (鉄部各所・ 鋼製建具など)	SOP 2回塗り	中
		上
ケイカル板面	VE 3回塗り	下
		中
		上

4) 施工時の気象条件等

- a. 気温が 5 以下のときは、施工を中止すること。
- b. 温度が低いとエマルション塗料は乾燥しにくく、ヒビ割れや剥離の原因となる。また、低温では反応が進まず硬化造膜しにくくなる。
- c. 風速 5 m/秒以上の場合は施工を中止する。特にこれが低温時の場合は注意が必要。また、第三者的な飛散公害の生じる恐れがある場合は、風の影響を少なくするためにシート等で養生措置をとる。
- d. 塗布した塗材が未乾燥のうちに雨にあたると流出してしまう。施工前に降雨があった場合は、下地に水分が残り高い含水率を示すことがある。

http://gemba-know-how.com

刷毛やサンドペーパー等で除去する。

を与えないように注意し、必要に応じあ、ビニール等で養生をする。

での期間は、他物質との接触を避けるた

塗料	塗布量	乾燥養生時間
（エポキシ樹脂）	0.08kg/m <sup>2</sup>	24 時間以上
（エポキシ樹脂）	0.09kg/m <sup>2</sup>	16 時間以上
（エポキシ樹脂）	0.08kg/m <sup>2</sup>	24 時間以上
（ビニル樹脂）	0.08kg/m <sup>2</sup>	2 時間以上
（ビニル樹脂）	0.08kg/m <sup>2</sup>	2 時間以上
（エポキシ樹脂）	0.08kg/m <sup>2</sup>	24 時間以上

こともあるので十分に注意し、場合によ

に 0 以下では乾燥しても完全な塗膜を  
レタン等の反応型材料の場合は、低温で

- 下地が十分に乾燥したのを確認してから施工に入る。(含水率 10%以下)
- e .晴天の続く日であっても、夜中の冷え込みから朝方には壁面に結露を生じていることがあり、施工面に結露がある状態で施工すると、塗膜の密着不良の原因になる。
- 下地が十分に乾燥しているのを確認してから施工に入る。(含水率 10%以下)
- f .湿度の高い日に室内の塗装を行う場合は、乾燥が非常に遅く作業性が悪くなる。
- 原則として、85%以上の相対湿度を維持する。
- g .気象条件による不良要因を排除する。
- 原則として、不良要因が排除されるまで施工を中止する。

## 6) 施工方法

### a . 塗料の調整

- (1) 原則として、調合された塗料を使用する。
- (2) 貯蔵中に均一な品質を保つために、定期的に攪拌し、製品になっている場合、作業前に所定のシンナーを添加し、攪拌する。
- (3) 係員は状況に応じて、その旨を確認する。
- (4) 所定の調合場所以外での調合は行わない。
- (5) 塗料は貯蔵中に分離、沈降が生じた場合は、沈降物により攪拌し、均一な状態にする。



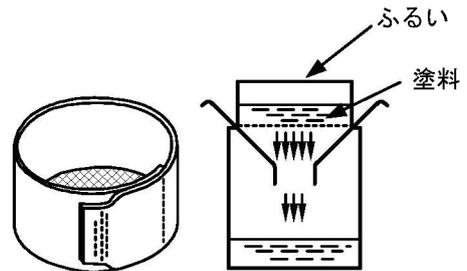
- (6) この場合かくはん等で再攪拌する。
- (7) こし分けに用いるふるい

る。

の条件に適した粘度より若干高い粘度の塗料を使用し、艶の程度、気温の高低等に応じて、塗装に適した状態の粘度に調整すること。

場合に立会って、その指示が守られていることを確認する。

現象を生じている場合があり、使用直前に調整が必要である。



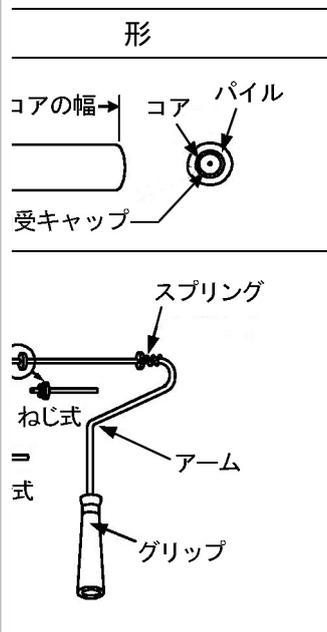
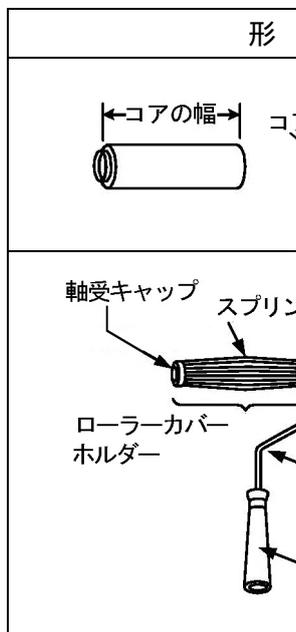
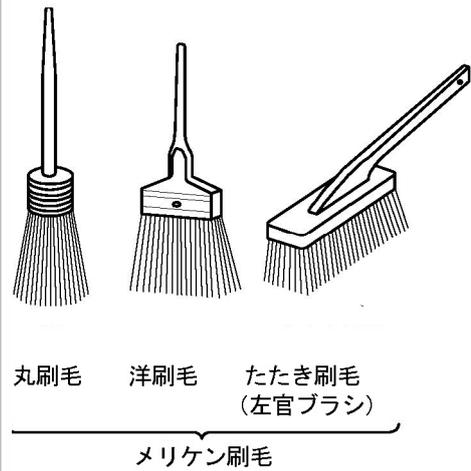
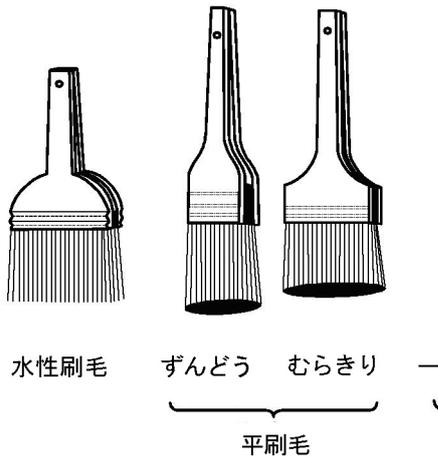
り、凝集等は、必要に応じてこしわけす。

塗 料	使用するふるい (JISZ8801 標準ふるいによる)	備 考
調合ペイントの類	0.250 ~ 0.125mm	しごき

ワニス・エナメル・ラッカーの類	0.125~0.105mm	自然滴下
-----------------	---------------	------

b. 塗料用器材

塗装に使うはけ、ローラーは塗料及び塗装面に滴りた形状並びに毛質のものを使い分け、色境、出隅、入隅など特に注意しないように均等に塗る。



http://gemba-know-how.com

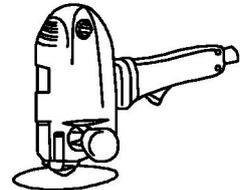
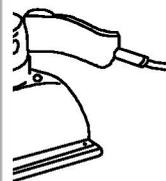
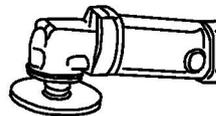
吹付けに使う塗装用スプレーガンは、塗装の性状、素材の形状、面積の大小等に応じて、ガンの種類、口径、空気圧等適切なものを選ぶ。



<http://gemba-know-how.com>

パテ塗り面等を平滑にし、付いたパテを厚付けした場合、先にサンドペーパーで目的の平滑度をコンクリート素地等で、不陸して、電動研磨機を使用する。

る場合にサンドペーパーを用いる。ペーパーで荒とぎし、次に細かい番手のサンドペーパーで錆の付着が大きい場合、荒とぎと



c . 塗り工法

塗り方は、はけ塗り、吹付け色違い・隅々等は乱さない。原則として扉の上下、小口などについては入念に行う。

等、塗料・施工部位に適した工法とし、塗分けを明確に塗分ける。特に外部まわり、湿気の多い箇所

d . 塗装仕様

表示されている放置時間は、乾燥時間を示すものであって、乾燥膜厚において、塗装管理

75%のときの次の工程に移るまでの最小乾燥時間は、放置時間を検討する。乾燥時には標準塗厚の 80%以上を目安とする

工場塗装と現場塗装に区分する場合は、現場搬入後工場塗装下塗り面を研磨清掃し、損傷部分を補修した後、現場塗装の工程に移る。

e . 作業の中止

塗装時の気温が 5℃ 以下の場合は塗装しない。また塗装作業は日没 2 時間前までで打ち切るものとする。

湿度が85%を越えたときは塗装しない。

外部塗装において、塗装前に降雨、結露、降霧のおそれのあるときは塗装しない。

風が強く、砂塵が飛散するときは塗装しない。

鉄面の表面温度が高く、塗膜に泡が生ずるおそれのあるときは塗装しない。

素地調整が終了したら、その日のうちに塗装を終わらせるようにする。もし、その日のうち

に塗装が終わらない場合は、

周囲で行われているその他

傷のおそれのある場合は作

f. 廃棄物の処理

- ・塗装終了後に発生する廃棄物  
を処理する。

7) 塗装工法におけるチェックポイント

a. 刷毛塗り

指定の塗料に適合した毛の種

刷毛は、よく洗浄され、ぬ

刷毛塗りは、はけ目通し、

仕上がり面に、だれ、すけ、

b. ローラーブラシ塗り

塗料に適合した大きさ、毛

塗付量に適合した毛の長さ

塗装時のローラーの回転は

塗装作業はローラーマーク

隅、ちり回り等は専用ロー

仕上り面に、だれ、すけ、

c. エアスプレー方式吹付け塗り

塗装開始前に周辺部分の養生

塗料が所定の粘度に調整され

スプレー塗装時の空気圧力が

塗装作業の被塗物とスプレ

スプレーガンの運行速度は

スプレーパターンの形状は、

d. エアレススプレー方式吹付け

塗料が所定の状態になっているか。

塗料に適合したノズルチップが選定されているか。

塗料が所定の圧力に加圧され、均一に霧化し、スプレーパターンにテールが発生していないか。

被塗物とスプレーガンとの距離及び運行速度は一定か。

仕上がり塗膜は膜厚が均一で、だれ、すけ、むら等の発生はないか。

http://gemba-know-how.com

再度素地調整を行ってから塗装する。

塗膜が不適当になった場合、または塗膜の損

傷が清掃に関する法律に基づき処理を行

っているか。

れているか。

ながら均一に塗装しているか。

均一に塗られているか。

を使用しているか。

しているか。

いるか。

か。

て塗られているか。

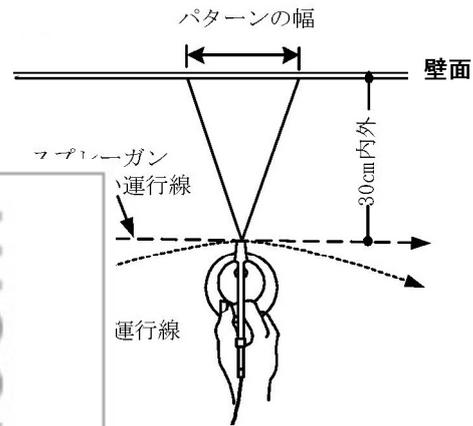
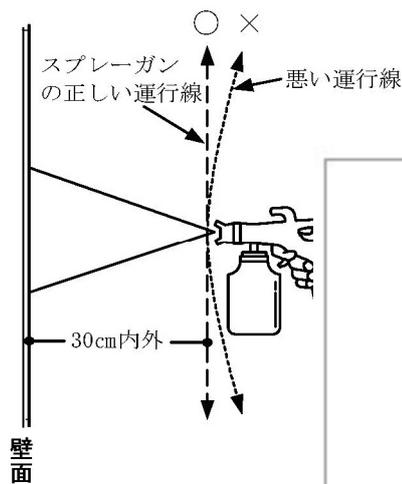
。

た、適切な施工条件となっているか。

か。

保たれているか。

すけ、むら等の発生はないか。



#### e. パテの塗り付け

パテかけ時には、素地とパテ  
パテを残す場合は、素地と  
パテをしごき取る。

パテ付けは、パテで全面を平  
行う。耐久性能を要求され

こ影響するため注意しなければならない。  
度に平滑にするようパテを残し、過剰な

時に美装性を要求される仕上げの場合に  
パテ付けを行わない。

#### 8) 施工上の注意点

- 本施工に入る前に必ず見本を  
特に、下地の差などから来る
- 各塗装工程の間隔は正しく取  
ねていくと、膨れや剥がれ等  
るようにする。
- 足場板の影の部分はムラが出  
検をして、ムラがある場合に

承諾を得るようにする。  
違点はあらかじめ承諾を得ておく。  
状態あるいは未硬化のうちに上に塗り重  
るので、規定以上のオープンタイムを取  
を払い、足場をはずす前には必ず自主点

#### 9) 養生

養生は汚れ防止のため入念に  
除去する必要がある。

捨てテープは施工後2時間  
養生材：ポリフィルムを粘  
施工面とテープとの境が蛇行しないように、  
しっかりと接着させる。

カッシ等に誤って付着したときは迅速に  
。

<http://gemba-know-how.com>

風などにより簡単に剥がれないように

10) 自主検査

	検査項目	要 点
1	下地状態の確認	面の仕上がり程度を調査し、塗装下地としての適性を確認する。
2	施工環境の確認	気温、湿度、風速等の状態に注意し、施工環境とし
3	使用材料の確認	下地の状態、色、材質等の確認を行う。
4	使用材料の取り扱い	適切な取り扱いを行う。調色は工場調色(調色機)をよく攪拌してから使用する。
5	塗装機材の選定	ガン等は塗料の種類・粘り具合・粘度等に応じて選定する。
6	塗装前の養生	養生材を適切に貼付し、養生材の破損や剥がれを防止する。養生材を汚さないよう適正な養生をほ
7	塗り方	塗料の塗りムラ、はがれ、しわ、刷毛目等がないように塗る。各塗り重ね工程においては、塗り重ねの工程を確認する。
8	塗装面の保護	塗膜が乾燥するまでは、物との接触、水または油による汚損を防止する。(立ち入り禁止、張り紙等による保護)
9	清掃	塗料の付着、汚れ、ゴミ等の清掃を行う。
10	検査・手直し	色・艶の班・カスレ・刷毛目その他で手直しを行う。

http://gemba-know-how.com